



日本大学文理学部国文学科 日本語学基礎演習2

はじめに

各ジャンルにおける
年代別キャライメージの比較

方言イメージと
週刊少年ジャンプにおける
方言キャライメージの
関係について

外国人と地元の
方言キャラクター

少女漫画における
方言による作品世界と
方言の基本イメージの関係

少年マンガにおける
方言を利用した
キャラの差別化

あとがき

おわりに

田中ゆかり

この冊子は、2012年度後期（水曜4限）に開講した基礎演習2の授業成果報告です。2012年度は、マンガにあらわれる日本語の「方言」がどのように作品中で用いられているか調査・検討することをこの科目の目標としました。その目標はどの程度達成されたでしょうか。

漫画のジャンルによって同じ「方言」でも作品内での扱われ方や機能が異なることを明らかにしようとしたもの、雑誌を限定しその雑誌における「方言」の扱われ方の特徴をみようとしたもの、日本語ネイティブでないキャラクターに「方言」が付与されているケースを分析したもの、主要な舞台が地方に設定された作品における「方言」の扱われ方を検討したもの、「方言」がキャラクター造形にどのようにかかわっているのかについてみたもの — 班ごとにさまざまなアプローチをした結果をまとめたものが、この冊子です。

日常、漫画のような創作物に触れる際、そこで用いられる「ことば」に注目することは、あまりないかもしれません。しかし、そこで当たり前のように使われている「ことば」は、今という時代や、漫画なら漫画というメディアにおけるニホンゴの水準をよく示すものです。今回は漫画を素材して、「方言」の水準を探ることをテーマとしましたが、漫画は、さまざまな「役割語」や「外国語」の表象など、他にもさまざまな観点から分析をすることが可能な素材です。本冊子に掲載したレポートは、拙いところはあるとは思いますが、ご一読いただくと幸いです。

なお、このクラスは、メイリングリストやデータの管理、実習などのための授業補助を林直樹さん（博士後期課程2年・RA）にお願いしました。この報告書ならびにweb報告書作成にも尽力していただきました。改めてお礼申し上げます。

 検索